

子育て親育て研修大会講演概要報告

日時：平成18年9月22日（金）
場所：山口県教育会館 5F第1研修室
講師：城 菊子 先生
演題：“ともに育つ～家庭教育は今～”
参加者：PTA 役員、教育関係者
主催：山口県 PTA 連合会 家庭教育委員会



講演概要

城先生は、周南市須々万に在住。昭和36年山口放送株式会社に入社される。昭和43年には、同社テレビ報道制作部の現場でディレクターになり、家庭教育番組やドキュメンタリーの制作に携わる。平成11年に同社テレビ制作部部長、平成12年、同社を退社し、フリーディレクターとなる。制作番組の中で、文部大臣賞、民間放送連盟優秀賞を受賞する。平成9年には、放送ウーマン賞を受賞される。

昭和48年ころ、(石油ショックまた、テレビでは「ドラえもん」が誕生した)母親業の中、仕事も続けてきた。特に、「ただいま3才」の制作に関わり平成元年には「すくすく山口っ子」平成11年には「はつらつ山口っ子」と名前を変えて番組を続けてきた。その中で、昭和の後期から平成にかけて子どもたちに変化がみえた。それまでは三世同居の中で、子育てをする人が多かったが核家族化が進んだ。少年犯罪が増え、心理学者の言葉にも「こんな時代になるとは・・・いったい子どもをどう育てたらいいのか」しかし、時代が変わっても「していい事、悪い事は教える」という子育ての基本は変わらない。

昭和51年に「ただいま3才」の視聴グループを作り、番組へ参加してもらい生き生きと提言してもらうようになる。山陰方面では、子どもが少ない。近所に友達がいないので、お母さんのストレスが増える。新南陽では「ただいま3才」を卒業後、4才児サークル活動ができてお父さんの参加も増えた。

今年、9月24日放送では、「働くお母さんPart2」育休で心が揺れ動いているお母さん、復帰した時の不安や子どもと過ごしている時間の大切さを取り上げている。お父さんの協力がとても大事で、子どもたち自身が協力している家族も紹介している。たとえ勉強をしなくても、お手伝いをする事は家庭の中の一員として大事な事。また家庭でのルールを作り、子どもも大人も共に成長していく。

社会教育委員として、アンケートを見たときに学識経験者の中から、「人の話を聞かない」という現状がある。話をする時には、子どもの目を見て話す、人の話を聞く習慣をつけることが大事。また、夢を持つこと、胸をはって何になりたいと言える子どもになるように導く。児童期に父子関係を深め、お父さんの夢を子どもに語ることも信頼関係を築くことにつながる。

自身も、教師・音楽家になりたかったが友人の勧めもあり、アナウンサーの試験を受け採用された。制作に携わり苦労も多く失敗も多かったが40年間生き生きと番組作りをやってこれたと感じている。

<子どもたちに必要なこと>

・自分の体や心を傷つける人間にならないように、生活体験、自然体験、家庭で約束ごとを作る、まず大人が生き生きとしていることが大事だと思う。

☆会場の様子

